

知事記者会見での「共同会の指定管理について」の質疑 (R1. 12. 16)

(記者) 先日 14 日の説明会に参加させていただきまして、知事の共同取材にも応じていただきありがとうございました。

共同会の指定管理の件で、何点かお伺いしたいです。あれから 2 日経ちましたけれども、知事が説明会の場でおっしゃっていた、来年 1 月からの裁判での新たな良くない事実が出てくると予測しているとおっしゃいました。2 日経って、新たな事実が何なのか、今、公表してもらえる部分がございますでしょうか。

(知事) この前も申し上げましたけれども、それを今ここで話すわけにはいかないと思います。私の耳にはいろいろな事、情報が入っていますけれども、それを具体にお話しするわけにはいかないということです。

(記者) 併せて、お伺いします。知事の本会議での発言等を聞かせていただきますと、共同会の運営に何か深刻な問題がある、というふうに考えているようにも私は受け取れるのですが、植松被告が起こした事件の背景にはですね、共同会の運営、体質みたいなものが起因しているというふうにお考えなのでしょうか。

(知事) いや、そのこのところ、この間も申し上げましたけれども、われわれはしっかりとあの事件のそういう背景を検証するというのを、やっていなかったのです。あの事件が起きて大変な衝撃があって、そして、何とかしてそこを、ご利用者の皆さんもいらっしゃいますから、皆さんにご不安をおかけしないような形で早く再生しなければいけない。

ということで、過去何があったかということを一生涯懸命見据えるよりも、とにかく前へ前へと向かって一生懸命走っていたというのが正直なところです。

今ここへ来て、振り返ってみたときに、改めて裁判も始まるといったときにその原点のところから、もう 1 回全部の話が出てくるわけです。

そういう時に、確かにそうだなって、なぜ、あのような事件が起きたのか。職員だった男が、あれだけ凶行な犯罪におよんだということは、園の経営と何か関係があったのか、運営と何か関係があったのか。それをわれわれは全然検証していなかったのです。

ですから、そこを改めてしっかりと検証していくことをやろうと言っているわけであって、私自身が関係があったと、そのようなことを言っているわけではないです。

(記者) 知事は新たな福祉を作りたいとおっしゃっていました。県内にある数多あるたくさんの福祉施設の中で、共同会がとりわけひどいものなのか、それとも、県

内施設一般的によくはない状況があるので、これをきっかけに変えていきたいと考えてらっしゃるのか。

(知事) 県内全体の実態を把握しているわけではないです。しかし、共同会だけの問題だとは思っていません。

今回、共同会の指定管理継続というものを一旦見直して公募にすると申し上げましたけれども、共同会だけがとってもひどくて、だから切るんだとそういうことを言っているのではなくて、裁判も始まる中で、共同会のあり方をいろんな形で問われることになってくるということが、もう目に見えていますから、だからわれわれは早めにそれを自分たちの手で、しっかり再出発に向けて取り組む姿勢を示すために、今回、公募に切り換えたというわけでありますけれども、やはり、根本的に私も含めてですけれども、障害福祉のあり方についての認識が、少し今の時代と違っていたのかなと思わざるを得ないです。

だから、それは何かというと、利用者のための福祉というふうにはずっと思っていたのです。ところがやはり、一番大事なことは利用者目線に立った障害福祉であると。一見似ているかもしれないけれど、そこが違うだろうと。だから、障害者のためにといい、この方に危険があったらいけないからといって縛っておこうとか、この人が外に出ていったら大変危ないから、利用者のために、部屋に閉じ込めておこうというようなことになったのかもしれないですけれども、でもやはり、その縛りつけられる人の目に立ってとか、部屋に閉じ込められる人の目に立ってというところというのは十分に思いが及んでいなかったと、私自身も含めて思っています。

ですから、他の施設でもそういうことが行われていたということは、たぶんあると思います。今もあると思います。

ですから、すべての意味で考え方を改めて、みんなで出直そうと、そういう意味です。

(記者) やまゆり園は県立の施設で、県が設置者なのですけれども、知事は来年1月からの裁判でいろいろな情報が出てくるといふふうにおっしゃっていますけれども、県は設置者なので、裁判より前に自らの手でよくないことを出して、みんなの土俵にあげた上で改革に取り組んでいくべきではないでしょうか。

(知事) その通りです。それを今回、方針転換ということで申し上げたわけです。

ですから、いったん仕切り直そうと、そして、あの時もお話しましたがけれども、先程申し上げたように、あの事件の背景です、あの事件はなぜ起きたのか。あの当時の共同会の支援のあり方といったものについて、さまざまな情報が寄せられていましたけれども、そういったことについてもちゃんと検証するというのを自らやっといこうということ。

それとともに、新しい福祉のあり方をみんなで議論して流れを作っといこうと。

それは裁判の中でいろいろ出てきて、それで言われて、それから動くのではなくて、先にやろうとしたというのが今回の決定だとお考えいただきたいと思います。

(記者) 良くない事実は出されないで裁判で明らかになるのを受け身で待つということでしょうか。今からあるものをどんどん出されて然るべきなのではないでしょうか。要は、何が良くないことなのかが分からないのですよ。

議会の質問の中では、例えば、身体拘束等はもう過去のことであって解決したという答弁がございました。現状、何が悪いことだったり、まだ出ていないことなのかが分からないのですけれども。それはもう先んじて設置者として出して然るべきなのではないでしょうか。

(知事) それは、いろいろな形で出せる状況になってくると思います。

(記者) 今の問題と関連してなのですが、厚生常任委員会でも、この前の議会で知事が表明した手法も含めて、指定管理を見直すに当たる根拠が薄いのではないかと、かなり厳しい声が聞かれているのですが、今後、議会に対してはどういった形でご対応されていくのでしょうか。

(知事) もともと議会の方でも、指定管理継続は検討すべきだという話が出されたので、ですから、議会の場でそれをお答えしたということだと受け取っていただきたいと思います。

ただ、裁判が、年が明けたらすぐ始まりますので、それまでには方向性を打ち出していかなければいけないなど、時間がなかったということです。

そういう意味で、家族会の皆さんとか利用者の皆さんとか、職員の皆さんに対してきちんと説明する時間的余裕がなかったということで、それは、この間、やまゆり園に行ってお詫びをいたしました。

しかし、これからしっかりと皆さんに対してご説明していきますと言いました。この間の説明会で1回話をしたから終わりとは思っていません。これから丁寧に説明していきたいと思っています。議会でも同様で、議員の皆さんに対しても、しっかりとご説明をしていきたいと思っています。

(記者) 土曜日なのですが、その後、理事長が、県との信頼関係を損ねられたと、協議に応じるけれども、指定管理期間の短縮に関して判は押せないということで、少し不快感を示されたのですが、かなり共同会が話し合いに関してかなり強硬的になるのかなと思ったのですが、どういった形で話し合いを進めていけますか。

(知事) 私の真意といったものをしっかりご理解いただけるように、丁寧にご説明をしていきたいと思っています。

(記者) 先程のやりとりの中で、事件の背景、なぜ、この事件が起きたのか、なぜ、職員が事件を起こしたのかというところの検証が足りなかったという話がありました。そこはこれから検証していくとお話がありましたけれども、具体的に検証のやり方としてはどういったことを想定されているのか教えてください。

(知事) それは今検討中です。どのような場を設定するのが一番いいのか、どういったメンバーでやっていくといいのかといったことも含めて、今、検討している最中です。

(記者) そうすると何かしらの場をつくるということも頭の中にはあって、委員会なのか協議会なのか、先程いった検討チームなのか、イメージを持たれて、事件を振り返っていく。

(知事) そういうことです。皆が自由勝手に、あれやこれや検討するのではなくて、きちんとした形で、それに向き合って、事実をしっかりと、自分たちの中で整理して、探求していくということ、そしてそれを再発防止に向けてというか、新しい福祉のあり方、では、何をすればいいのかといったことをしっかりと丁寧に議論する場です。

(記者) 先程から、1月から裁判が始まるというお話ありましたけれども、その検討というのはいつ頃から始めたいというお考えなんでしょうか。

(知事) なるべく早く始めたいと思っています。もう年末のぎりぎりですから、どこになるかと、今まだ日にちは申し上げられませんけれども、どのような場を作るかも含めて、なるべく早い段階でスタートさせたいと思っています。

(記者) それは、裁判の前なのか後なのか、どういうスケジュール感でしょうか。

(知事) 裁判が始まっていきなり、1月8日から何か、「わーっ」とこうなるわけではないと思いますけれども、できれば裁判の前にはスタートさせたいと思っています。しかし、年末年始のこういう時に差しかかってきましたから。いつスタートできるか少し今ここでは明言できません。

(記者) いつ検証を始められるかが未定ということでしたけれども、先程の話とつなげていくと、裁判で、証拠ですとか職場の環境でこういうふうになったのですとか、それなりの話が出ると思うのですけれども、そう考えると裁判が進展しないと議論が進まないのではないのでしょうか。

(知事) いや、そのようなことはないと思います。われわれ自身の中でさまざまな情報分析できますから。県自身もやはりさまざまな情報持っていることもあります

から。そういったものをしっかり整理しながら分析していくという作業が大変大事だと思います。

それと利用者の皆さんにお話をお伺いしたり、家族の皆さんの話をしたり、支援者、職員の皆さんにお話を聞いたりとか、さまざまそれはあり得ると思いますから。

(記者) 後、指定管理の見直しについて1個だけあれなのですけれども、今、利用者、家族会それから共同会それぞれの理解が得られている状況だとはあんまり思えないのですけれども、知事としては裁判の中でいろいろ出てくるとおっしゃったということは、裁判をちゃんとこう注視していれば、見ていけば、ほとんど納得いただけるものが出てくるだろうというふうに思われているわけでしょうか。要するに知事として、これから裁判始まるまで一定の説明を進めていかれるのでしょうかけれども、裁判を見ていると、今反発が起こっていると思うのですけれども、その反発が収まるほどの何かが出てくるだろうというふうにおっしゃっている。

(知事) その裁判の中に何が出てくるという以上に、私自身がしっかりとご説明をして、納得いただくように努力したいということです。

(記者) 関連で、共同会が、委託期間の短縮には応じない構えを見せていると思うのですけれども、県と共同会との契約協定の関連でいうと、共同会が短縮に応じなければ、その見直しも出来ないという理解でよろしいのでしょうか。

(知事) そこは応じていただけるように、しっかりと丁寧に説明していきたいと思っています。

(記者) 共同会が応じないと運営見直しができないと。

(知事) いや、だからそれもしっかりと応じていただけるよう、努力していきたいということです。

(記者) 少し事実関係を確認したいことがありますて、あのやまゆり園の件なのですが、14日の説明会で、知事は、入所者や家族の前で、指定管理者の見直しの理由の説明で、入所者、地域移行した入所者3人に会って、生き生きした姿に感動した、それが一つの理由だというお話があったのですけれども、一方で、先日の厚生常任委員会で、2日に知事がそういうシーンを見て感動的なシーンだったというのはあくまでテレビで見た情報で判断したとっているのですけれども、事実関係はどちらなのでしょう。実際会って、判断されたのか。

(知事) これは、どちらも真実です。というのも、議会で発言した時に言った意味というのは、テレビでポンと見たから、「アッこれだ」と思ったわけではなくて、その前に実は、津久井やまゆり園から出た方が生き生きと働いていらっしゃる現場を見ていました、見に行っていました。てらん広場という所に行っていました。

この人達はこんなに生き生きと働けるのだという、ずっと見てたわけです。それでテレビ見たときに、ある一人の方をずっとフォーカスしてたわけです。その中で一つのイメージが繋がったというわけです。

それで議会では、皆さんがご承知のとおりというように、テレビで皆さんが見れる状況にあったわけですから、その事例を引用して、話をしました。その後、その方がその後どうなっているのかなど、議会で発言した後に再び、皆さんの所を訪れて、そして、今の様子を見てきたということです。

(記者) 議会のご発言の前と後で直接お会いになったということですね。

(知事) そうですね。

(記者) 関連ですが、それはいつお会いになったのですか。

(知事) いつか、先週です。2回行きました。てらん広場。だから、松田さん、松田智子さんにまず最初お会いして、その後、吉田壺成さんと、後、平野和己さんのお話をお伺いして。平野和己さんのご両親ともお話をしました。吉田さんのお母さんとは、その時、いらっしゃらなかったもので、電話でお話をしました。

(知事政策秘書官) 日にちは、9日と13日の金曜日です。

(記者) 先程から出ている話なのですが、共同会にとって、新たな良くない事実が耳に入ってきたということなのですが、これ、いつから公表するのか具体的に今のところ決めていないのでしょうか。期限を決めて、このあたりに公表するとか。

(知事) 今のところまだ決めてないです。そういう時が来るかもしれない。

(記者) 公表する考えは今のところあるのでしょうか。

(知事) それも含めて少し検討していきたいです。

以上

